

個人決済におけるスマートフォン決済の有効性 ～クラウドコンピューティングがもたらす役割～

[2014・FW] 2112104 迎 春

1. 研究の背景と意義

個人決済において、今まではクレジットカード決済端末が主な決済手段として使われていた。しかし、端末代（初期費用）が高く、審査や売上入金までの期間が長いなど、課題が多くあげられている。そのため、中小企業・個人事業主などには簡単に導入できるものでは無かった。その最大の要因は資金繰りの問題である。

日本では2013年から、スマートフォン決済サービスが注目され始めた。このサービスは、従来のクレジットカード決済端末とは異なり、iPhoneやAndroidなどスマートフォンがあれば、いつでもどこでもクレジットカードでの支払いを簡単に素早く受け付けることができる。情報技術活用上では、スマートフォン決済においては、クラウドコンピューティング上で情報をコントロールする仕組みから作られており、早く、安全にデータの取引が行われる。

スマートフォン決済が時代の流れに乗ってきており、個人事業主や顧客に必要とされている現在、今回の研究は今後の個人や中小企業の決済のあり方に貢献できる。

2. 研究目的・方法

クレジットカードによるスマートフォン決済の仕組みは、今後十分に成り立つのか。発展条件は何かを研究する。そのための前提として、顧客及び加盟店の個人事業主にもたらすメリットを研究する。

研究方法としては、ウェブページや書籍を含む文献調査が中心である。さらに、事業者へのインタビューや、カード利用者へのアンケート調査などを行う。

3. 研究結果・考察

—スマートフォン決済を導入した事業者の分析—

第一に、導入のきっかけは費用を抑えたく、入金が早いなど、利点が多いためである。利点として例えば、レジアプリの使いやすさであり、店舗の状況はいつでも確認できるほか、従業員の教育研修にも便利な点が挙げられる。

第二に、クレジットカード決済の利用率は業種によって差があり、効果も様々である。クレジットカード決済が通常の決済手段として利用されていることがあれば、状況によって顧客の行動が変わることが分かった。スマートフォン決済の導入によって、顧客誘導につながったと言え、結果的には売上増加になると考えている事業者もいる。

第三に、運営会社に対する不安は意外と少なく、目立つ

問題点もないため、今後はビジネス上で利用したいと考える事業者は多い。

—カード利用者へのアンケートの分析—

第一に、スマートフォン決済についてはほとんど知識がないが、個人商店でも使いたい、レジに並ばなくて済むなどの理由で今後スマートフォン決済ができる店舗を利用したい人が半分ぐらいいることが判明した。

第二に、7割が今後もクレジットカードを利用したいと回答し、理由は「現金をたくさん持ちたくない、ポイントをためておきたい」が目立つ。

4. 結論

個人決済におけるスマートフォン決済の有効性について以下の点が明らかになった。

第一に、スマートフォン決済サービスは規模が小さく単価が高い店舗での導入に適している。その他、規模が小さい店舗でもカードで支払いを希望する顧客がおり、現金をたくさん持ち歩きたくない人や、現金を持っていない人もいるため歓迎できる。審査も通りやすいため、新しくオープンする店舗にも導入しやすい。

第二は、スマートフォン決済において、クラウドコンピューティングが活用されているため、「いつでも、どこでも」スマートフォン決済を行うことができ、さらにクラウド上で集まった販売データなどの情報を分析することで経営に活用できるというスマートフォン決済の有効性を検証できた。

スマートフォン決済が今後、日本で伸びていくために、以下の3点を主張する。

まず、スマートフォン決済の存在をより多くの消費者に告知するための宣伝が必要である。

次に、スマートフォン決済は消費者のデータをクラウドで扱っていることに対し、個人情報保護や情報管理の信頼性について心配する消費者がいるため、クラウドの安全性を知ってもらう必要がある。

最後に、すべてのカードに対応していない点やアプリの不具合などの改善が今後の課題として残されていることが確認できた。

以上の点を満たすことができれば、スマートフォン決済は今後日本で伸びていくことが期待できる。